

報道関係者各位
Press Release

平成 30 年 11 月
「BIDOOR (ビドー)」運営元
株式会社 ビドー

=====
インテリア金物の BIDOOR(ビドー)が

京都在住の伝統工芸アーティストと業務提携し、新シリーズを発売開始

=====
弊社(株式会社ビドー 大阪市東成区大今里西 1-25-4、代表取締役 長野孝豊)は、京都の
伝統工芸アーティストと業務提携し新製品シリーズの販売を開始いたしました。



PC-953-WH 七宝いろは丸 梅 パールホワイト

<http://www.bidoor.co.jp/iroha.html>

この度インテリア金物 BIDOOR(ビドー)が発売するのはオールハンドクラフトの七宝焼を利用した襖引手のシリーズ。シリーズ名は「七宝いろは」。特徴は以下の通り。

記

- ①摩擦に強く色褪せない永年保存可能な七宝焼を使用
- ②七宝作家による繊細な表現(有線七宝/下記参照)が可能
- ③既製品以外にオリジナルデザインの少量製作が可能

以上

BIDOOR(ビドー)ではインテリアの中の「和」在り方を、小さな金物部品の側面から模索する「ワトモス(洋室に和を灯す)」活動を行っています。今回はその一環で伝統工芸とのコラボレーションチャレンジを行いました。

=====

製品の特長と仕様

=====



七宝焼は 1000 年の色彩と言われるほど摩擦に強く耐久性が高い為、世代を超え鮮やかな発色のまま、形のあるものとして永年に残ります。BIDOOR(ビドー)の七宝いろはシリーズの底板デザインは、京都在住の七宝作家によるハンドクラフト(手作り)。リボン状の薄い銀線(貴金属)で模様をつける「有線七宝」により、繊細さや奥深さを実現することができました。間(ま)のある模様によって、洋室と合わせても上品でモダンな調和が可能。七宝作家との共同で新作デザインも毎年更新を予定しています。受注生産製品(納期応相談)。

◆主な特長

- ①摩擦に強く色褪せない永年保存可能な七宝焼を使用
- ②七宝作家による有線七宝の繊細な表現が可能
- ③既製品以外にオリジナルデザインの少量製作が可能

◆仕様

- ・生産地: 日本
- ・材質:

底板:	純銀(貴金属/軽く弧を描いた凸形) + 七宝釉薬
胴:	純銅(貴金属)
- ・仕上げ:

底仕上げ:	有線七宝焼(リボン状の薄い金属線による描画)
胴仕上げ:	プライマー(剥離防止) + 焼付塗装(表面保護)
胴カラー:	BK=ツヤケシ黒 SL=ホワイトブロンズメッキ WH=パールホワイト BR=純銅メッキ
- ・サイズ: 七宝焼き特有の収縮によって多少サイズが異なります。
 (参考サイズ)大: 外寸 φ67 裏寸 φ61 全高 9 表厚 2
 (参考サイズ)中: 外寸 φ47 裏寸 φ41.5 全高 9 表厚 2

[サイズ表 PDF ダウンロード](#)

◆納期:

本シリーズは受注生産品の為、納期の確定はご注文後にお知らせいたします。ご注文数量や作家の製作予定、その他の要件によって納期は変更されることがあります。予めご了承くださいませよう、お願い申し上げます。



- ・既製品は通常 3 週間～1 か月程度
- ・お客様オリジナルは 65 営業日程度

例) オリジナルデザイン制作のステップイメージ

お申込み～製作準備	01～02 営業日
内容とご要望の確認	03～05 営業日
オリジナルデザイン作業	07～21 営業日
オリジナルデザイン草案確認	22～25 営業日
オリジナルデザイン調整	26～37 営業日
オリジナルデザイン最終確認	38～40 営業日
製作開始	40～60 営業日
納品	65 営業日

◆ご注意:

七宝焼は摩擦に強く、永年使用でも色褪せることはありませんが、強い衝撃を加えると表面が破損する場合があります。長くお使いいただけるよう、取り付け時には必ず胴巻などの「ツメ止め対策」を行うようにしてください。

[取扱説明書 PDF ダウンロード](#)

◆お手入:

柔らかい布での乾拭きを推奨します。100 倍に薄めた中性洗剤を含んだ布でのふき取りも有効ですが、水分を取り除くため乾拭きを忘れずに行ってください。また、ふき取り作業は軽くふき取る程度で強くこすり付けないでください。表面破損の原因になることがあります。

◆サポート：

・無料保証

七宝いろはシリーズの底板は無料保証対象です。ただし、胴(手掛部)については対象外。保証期間内で保証の条件に当てはまる場合には無料で保証修理を受けられます。概要は以下の通り。

内容 通常使用における底板破損についての補修費用は弊社負担。
製品の取り外し、取り付け、デリバリー(返送・配送費)、その他付帯経費など製品本体に帰属しない費用は保証対象外。

対象 七宝いろはシリーズの底板(絵部分)※胴(手掛部)は無料保証対象外。

期間 納品日より2年間(期間外の場合は有料修理可能)

・有料修理・修繕

七宝いろはシリーズは有料修理可能です。弊社まで製品をお送りください。修理代金と納期をお知らせいたします。手順の概要は以下の通り。

- 1、返品フォームかお電話で弊社までご連絡
- 2、製品のご返送(送料お客様負担)
- 3、製品の検査・検証
- 4、お見積もりとお支払い
- 5、修理作業開始
- 6、修理完了のご連絡
- 7、納品(送料弊社負担:国内のみ)

「七宝いろは」サポートページ

=====

開発ストーリー

=====

・「有線七宝」の引手がない

七宝焼の引手は古くから多く存在しています。しかし、釉薬の色を主体とした抽象的な柄が多く、繊細なデザインが可能な「有線七宝(リボン状の薄い銀線/貴金属で模様をつける方法)」を使用した既製品は見当たりませんでした。

実際に作ってみることになり、試作製作を開始しましたがスムーズに出来ません。それには七宝釉薬(ゆうやく/七宝焼の絵の具)の厚みに始まり、台座の材質や形状、焼付け温度、時間、収縮率、完成品の厚みや変形の調整、組み立て調整の技術…等、様々な要因がありました。これらは仕上げや出来栄えに影響し、また形状不良は原価などにも関わるものでした。

・なぜ製品化するのか？

「有線七宝」が引手として多く普及しなかった一つの理由に、労力とコストのつり合いが取れにくいことが考えられます。当社の歴史を振り返っても、手造りの襖引手は専門工場でも量産化することで金型プレス製品に変わり、コストを抑えて多く普及しました。しかし、製作工程を工業化できない製品はコストを抑えることができません。

一方で、七宝焼きは1000年の色彩と言われるほど耐久性が高い為、世代を超え鮮やかな発色のまま形のあるものとして永年に残ります。しかし、本当の意味で残るとは、形としてだけでなく使われ続けること。引手として永く使われる為には、洋室化する室内インテリアにでも違和感なくマッチするような多彩なデザインや色彩と表現力が今後は必要だと感じていました。やはり、有線七宝を使うしかありません。

・どうやって製品化するのか？

受注生産による少量生産なら問題を解決できないだろうか？お客様のオリジナルデザインも受けられるような体制があれば価値の高いものになるのではないかと？作家の方の製作や納期負担が少なくなる方法は？仕事を面白く取り組んでもらう方法は？低コストで効率よく広報販売する方法は？今、自分たちにできることは何かを様々な角度で考え、作家の方と相談しながら製品化を進めていきました。

試行錯誤の末、従来よりもコストを抑えた既製品とオリジナルデザインを受注販売するという方法で今回のプロジェクトを正式に開始することが出来ました。引手としては高額な部類に入りますが、オリジナルデザインが少量生産できる純日本製の貴金属製品として、永く使用していただけるシリーズになったと感じております。製作工数の改良や細かい調整をしていただいた作家の皆様、その他関係者の皆様に感謝いたします。

◆七宝いろはシリーズ WEB ページ

<http://www.bidoor.co.jp/iroha.html>

◆七宝いろは取扱説明 PDF のダウンロード(無料)

http://www.bidoor.co.jp/bidoor/wpdf/iroha_manual.pdf

◆七宝いろはシリーズが掲載されているカタログ PDF のダウンロード(無料)

<http://www.bidoor.co.jp/catalogue.html>

◆ワトモスコンセプト WEB ページ

<http://www.bidoor.co.jp/watomos.html>

◆BIDOOR(ビドー) コーポレート・メッセージ 2018 年

BIDOOR(ビドー)はおかげさまで創業 100 年を超えることができました。起源は江戸時代までさかのぼり、もとは京都で大名公家に出入りを許されていた飾り金物職人でした。主に刀の鍔(ツバ)製作を行っておいりましたので、現代的に言えば「刀剣・金属装飾を手がける技術・デザイン集団」…、と言ったところでしょうか。明治以降は「襖引手」などの装飾金物の製作を経て、現在は建築・家具金物、中でも室内インテリアに関する金物類の企画・製作・販売を行っています。

近年、住まいの空間設計にシンプルスタイルが好まれる傾向が高まってきております。室内装飾の考え方は様々ありますが、中でも室内建具のデザインは、部屋の印象に関わり、建築金物は部品でありながらイメージの重要ポイントとなることもあります。飽きのこない素朴で美しいもの。現代のインテリアとマッチしながら、ちょっとおしゃれで綺麗なもの。BIDOOR(ビドー)はそんな製品を今後も創って行きたいと考えています。

◆お問い合わせ

株式会社 ビドー (インテリア金物ブランド BIDOOR(ビドー)運営元)

〒537-0014 大阪市東成区大今里西 1-25-4

TEL : (06)6972-3824(代) FAX : (06)6974-3865(代)

広報担当 : 長野孝豊

BIDOOR(ビドー)WEB サイト <http://www.bidoor.co.jp/>

お問い合わせメールアドレス info@bidoor.co.jp